平成２８年度　長与町総合教育会議

１　日　時　　平成２９年２月２３日（木）　１０時３０分開会

２　場　所　　長与町役場４階第１委員会室

３　出席者

町　　長	吉 田 愼 一
教 育 長	勝 本 真 二
教育委員会委員	村 上 光 子
教育委員会委員	原 田 成 信
教育委員会委員	野 口 眞 知 子
教育委員会委員	古 賀 清 彦

４　事務局

総務部総務課、教育委員会事務局教育総務課

５　会議録

○山本総務課長

皆さん、おはようございます。

ただいまから、平成２８年度長与町総合教育会議を開会いたします。本会議は、お手元の次第に従いまして進めさせていただきます。それでは始めに、長与町長より御挨拶を頂きます。

○吉田町長

皆さん、おはようございます。こうして教育委員会の皆様方にお集まりになっていただいておりますけども、日頃から、子ども達の教育の充実及び青少年の健全育成ということにつきまして、多大なる御尽力を頂いておりますことに、心より感謝申し上げたいと思います。

特に学校教育におきましては、先生方、あるいは保護者の皆様、そして地域の方々には熱心に取り組んでいただいており、長与町の教育行政は素晴らしい成果を生んでいると私は思っております。特にその中でも、挨拶がいいんですよね。私自身もよく「長与町は、非常に子ども達の挨拶が良い」ということを言われ、本当に挨拶ができるということが、これは簡単のようで難しく、これができるというのはやっぱり、色んなことができるということだと思います。挨拶できる人というのは色々なことができる。こういった取組を今後も続けていただけるよう、皆様方と共に、尽力していきたいと思っております。

去年になりますが、地方教育行政の組織及び運営に関する法律が改正されたわけでご

ざいまして、教育委員会の仕組みが変わりました。そのような中で、本日のように長与町総合教育会議を設置すると規定されております。総合教育会議という枠組の変化があった訳でございますけども、教育委員会と私達は、以前と変わらず、まっすぐ長与町の教育行政を見ながら進んでいるのは変わりません。このような組織の編成になり、より一層、意見を交わす場が増えたのかなと思っております。そういった意味で言えば、教育行政の在り方について、町長部局の方も理解を深められ、町がやるべきことや、様々な実態を知ることができます。町長部局と教育委員会とが、様々な場面で協力するという機運も出てくるであろうこの新しい枠組みというのを、教育行政の向上のために、今後とも役立てていきたいと思っております。本日は、よろしくお願いいたします。

○山本総務課長

ありがとうございました。続きまして、教育委員会教育長の挨拶をお願いいたします。

○勝本教育長

皆さん、おはようございます。本日はお忙しい中、吉田町長様には本会を開催していただきまして、誠にありがとうございます。委員の皆様には、日頃より校区の学校行事及び公民館行事などに参加していただき、子ども達に温かい励ましの言葉をいただきましてありがとうございます。

おかげさまで、各学校では子ども達を中心として、教職員、保護者、地域の方々の指導や支援に包まれ、各学校がそれぞれに特色のある成果を出しております。これもひとえに皆様方の温かい御支援御協力のおかげだと感謝しております。

また、町長様におかれましては、「教育の町　ながよ」を推進するため、財政が厳しい中、次代を担う子ども達の教育のために先行投資とも言えます形で、予算を確保していただき、「ながよ検定」を始め、ＩＣＴ機器の整備、デジタル教科書等の整備におきまして、御尽力いただき誠にありがとうございます。おかげさまで、基礎学力の定着、及び学力の充実発展に繋がり、全国学力テストの結果に表れていることも大変嬉しく思っております。これもひとえに町長様の御配慮、御高配のおかげだと感謝しております。

本日は、レジュメにありますように、平成２９年度の教育施策を中心とした議題でございますので、忌憚のない御協議をいただきまして、来年度に繋げたいと思っておりますので、よろしくお願いいたしまして、挨拶に代えさせていただきます。

○山本総務課長

ありがとうございました。続きまして、構成員の紹介を行います。まず、

吉田愼一　長与町長

教育委員会　勝本　真二　教育長

教育委員会　村上　光子　委員

教育委員会　原田　成信　委員

教育委員会　野口眞知子　委員

教育委員会　古賀　清彦　委員

でございます。議事に入ります前に、総合教育会議の概要につきまして、事務局より

説明をいたします。

○中村総務課長補佐

お手元の資料１「総合教育会議の概要」につきまして御説明いたします。総合教育会議につきましては、平成２７年６月に開催して以来となりますので、概要につきまして簡単に御説明いたします。

会議の趣旨といたしまして、総合教育会議は、町長と教育委員会が連携を強化し、より一層民意を反映した教育行政を推進するため、対等な執行機関同士が協議・調整を行う場です。会議のポイントといたしまして、

(1)　会議の設置は、町長が行う。
(2)　構成員は、町長と教育委員会である。
(3)　会議は、町長が招集する。
(4)　会議の協議・調整事項は、教育政策に関する事項
(5)　教育行政の大綱の策定について（平成２７年度策定済）
(6)　教育の条件整備など重点的に講ずべき施策について
(7)　児童生徒等の生命、身体の保護等緊急の場合に講ずべき措置について

などになります。

町長と教育委員会は、会議において協議・調整を行い、合意した方針の基に、双方が所管する事務を執行します。会議は、原則公開です。会議録につきましては、これを公表しています。会議の事務局は、総務部総務課及び教育委員会事務局教育総務課が、連携を図り行うものとしております。以上です。

○山本総務課長

それでは、議事に移りたいと思います。本日の議事は、次第にありますとおり、平成２９年度教育施策及び予算について、となっております。

一つ目、平成２９年度学校教育課重点的取組「長与町英語力向上事業」について

二つ目、学校のＩＣＴ環境の整備について

この２点につきまして、意見交換したいと考えております。まず、詳細につきまして事務局の方から説明をいたします。よろしくお願いします。

○近藤教育委員会理事

それでは、１点目の学校教育課重点的取組ということで、着座のまま御説明を差し上げたいと思います。先ほど、概要の説明にもありましたが、町長と教育委員会が連携して効果的な教育行政を推進するという趣旨に基づき、教育を行うための諸条件の整備として、平成２９年度から、長与町英語力向上事業について取り組みたいと考えております。資料２の方になりますので、その１枚目をもって御説明差し上げたいと思います。

資料２の１ページ目右上を見ていただくとわかると思いますが、国の喫緊の教育課題として、「国際的感覚を有し、急速に進展するグローバル化の社会に対応できる児童生徒を育成する」というものが、大きな命題となっております。下の段に書いておりますが、平成３２年度、いわゆるオリンピックイヤーを一つの目標点として、英語教育の在

り方や体制整備を強力に推進する旨、文部科学省は打ち出しております。中でも平成３２年度からは、小学校５、６年生における英語科が新たに創設され、３、４年生では「外国語活動」として、今まで「総合的な学習の時間」で扱ってきていたものを、英語科目という特化した形で外枠に持ってくるという改革が目に見える形で行われることとなっています。翻ってみますと、第９次総合計画の中では、長与町の施策として、国際交流の推進、大学等との連携等を含んだ多様な協働の環境づくり、それから学校教育の充実、それから内側には国際化への対応を謳い、「教育の町　ながよ」を形づくっていくという方向性が示されております。

そこで、平成２９年度から長与町教育委員会としては、イングリッシュアドベンチャー事業を新規で立ち上げます。これは、平成２８年度に県が先導的に実施した事業を受け継ぐ形で、長与町モデルを構築したいというのが、１点目でございます。

２点目について、拡充事業でございますが、ＡＬＴの配置が現在町内で１名であるところを、中学校にそれぞれ１名ずつ、すなわち３名への増員を行いたいと考えております。また、既存事業として、英語活動・英語学習の向上については取り組んでいるところですが、これも継続して実施してまいりたいということで、今回、お諮りするところです。以上です。

○山本総務課長

以上、事務局からの説明なります。平成２９年度学校教育課重点取組「長与町英語力向上事業」につきまして、御質問等あれば、伺いたいと思います。よろしくお願いします。

勝本教育長。

○勝本教育長

先ほど、説明にあった「国際的感覚を有し、急速に進展するグローバル化の社会に対応できる児童生徒の育成」ということについて補足いたします。

結局のところ、近隣諸国の中国や韓国、台湾にしても、子ども達が英語を喋れるんですね、会話ができる。日本だけがそうではない。中学校から時間をかけている割には喋れない。私は、２０数年前に文科省の研修でヨーロッパを回ったのですが、学習していた英語が、実際の会話では成り立たないことがありました。自分としては、ボディランゲージなどで意思疎通し、それでどうにか通すことができました。あのとき初めて私は、これではいけない、やはり英語力といっても、日常生活で必要となる会話力がないことには、海外では通用しない、日本は遅れてしまうと危惧したことがありました。

もっと早く英語をしなければならないと、そのとき思いました。早くそのような環境が整えばと思っていましたが、あれから２０数年経過し、ようやくという思いです。東京オリンピックが機会となり、少々緊急的に推進されている部分もあります。

今年度の頭になりますが、長崎県が、イングリッシュシャワーではありませんが、英語だけしか１日喋れないような環境に子どもたちを置くという試みを実施しました。長与町内の全ての中学校の子ども達をハウステンボスに呼んで、英語漬けにさせる、そういう交流が起点となり、先ほど理事からの説明があったように、長与モデルの構築を平

成２９年度で実施してみようという運びになりました。

長与町には、県立大学シーボルト校があり、シーボルト校の学生の海外からの留学生や、国際交流で来ている方々に協力していただきながら、１日英語漬けにしようという試みがあります。

それに加えて、現在、町内ではＡＬＴが１名です。他市町は複数名のＡＬＴを任用しており、これではいけないと考えました。「教育のまち　ながよ」を維持するためには、増員して環境を良くしていかなければいけないということで、今年ＡＬＴを２名増員して、各学校に１名ずつ配置したいと考えております。ＡＬＴの手が空いたときは、小学校でも授業してもらうなどの環境を整え、少しでも英語ができ、少しでも日常生活の会話ができるような子ども達を育成できないか、そういう意味で、次年度の取組として提案したような次第でございます。

○山本総務課長

村上委員。

○村上委員

色々な説明をいただきながら、長与町のこれからの目標というものが見えてきますが、まず、長与町は、他市町に比べてもいち早く、英語教育には力を入れていると思います。英語暗唱大会において高田中学校の生徒が最優秀賞を受け、長与中学校では県の委託として３年間でＩＣＴの研究発表を行い、今年度からは英語検定も実施されています。

先ほど教育長のお話で、現状はＡＬＴが１名であり、次は３名に増員したいということですけども、教育委員としましては、小中学校の実態をもう少し詳しく、知らせていただけたらと思っております。よろしくお願いいたします。

○山本総務課長

近藤理事。

○近藤教育委員会理事

小中学校の実態ということで、まず他市町とのＡＬＴの配置の比較についてお話したいと思います。

現在、ＡＬＴは、長崎県下およそ１２０名が配置されています。これを単純に考えると、ＡＬＴ１人で見る中学生の数は、３００人強です。これに比べ長与町は、１，２００人を超える子どもを１人のＡＬＴが見ているということになり、ネイティブな外国語に触れる機会が、それだけ薄いという状況になっております。ちなみに、この数字は、県下で最も劣悪な状況です。

長崎市を例にとりますと１人のＡＬＴが持っている生徒数は２７０名、佐世保市がやや多くて６４０名、最も少ないところでいうと、１００数名を１人のＡＬＴが持っているという状況の自治体もございます。

筆記試験では、長与町の成績は大変優れています。しかしながら、先ほど教育長からもありましたように、グローバル化ということを考えたときに、ネイティブとコミュニ

ケーションをとるなどといった部分において足らない部分があるということが、基本的な課題として存在し、その部分での増員と考えております。

また、小学校の状況につきましては、長与町内在住であり、元外国籍であった方数名を各小学校に派遣して、その方にネイティブな会話や発音などの学習ができるようにしておりました。

ＡＬＴを増員することによって、そのＡＬＴが各小学校もカバーできるような体制を次年度以降つくれるように、現在、線引きをしているところです。

○山本総務課長

野口委員。

○野口委員

先ほど教育長から話がありましたように、私も英語教育が本当に大切であることを痛切に感じており、教育委員に拝命していただいた頃から、英語がいかに大切であるかを申し述べさせていただきました。

私の体験から申し上げますと、国際会議に出席することが多く、そのような場面で日本の国のトップの先生達が、英語で討論できないという現状をずっと目の当たりにしてきまして、英語、英会話が必要だということを繰り返し申し上げてきて、このところやっと御理解をいただき、ＡＬＴが増員されるということで大変喜んでおります。

ただＡＬＴを増やすのではなく、やはり、周囲が上から目線で「英語を勉強しなくちゃいけません」と言う前に、まずは私たち自身が英語・英会話に関心を持って、行動を起こしていくべきではないかと思います。

英語といっても色々な英語があり、それぞれがたどたどしい言葉で皆さん話しておられます。だから１００％完璧を目指そうと思うのでなく、失敗は成功のもとという心掛けで、この町のトップのここにいらっしゃる方々も、今日から始めましょうということを申し上げたいですね。

また、ＡＬＴに関しまして、運動会などでは、ＡＬＴがぽつんと座っていることがよくあります。もったいない時間だなあと感じます。そういうときに、周囲が話しかけて、長与町の紹介などを通して交流することにより、ＡＬＴもまた長与町を愛してくれると思いますので、そのような活動を広げられればと感じます。

もう１点、ウェザースフィールドの話題になりますけども、長与町広報のこの記事を楽しみに拝見しておりますが、具体的に現在、長与町の学校で、ウェザースフィールドとどのような関わりを持っておられるのかを質問させていただきたいと思います。

○山本総務課長

近藤理事。

○近藤教育委員会理事

現在、長与小学校が姉妹都市であるウェザースフィールドの学校と交流をしております。交流の内容といたしましては、ミックンと向こうのイメージキャラクターの絵を描

いたものを送り、それに対して向こうからは、個人のプロフィールなどの紹介文が送ってくるというような交流が行われています。

現在は、長与町や長崎を紹介するような映像を作成するなど、様々な交流のためのアイディアを検討しているところです。

○山本総務課長

勝本教育長。

○勝本教育長

私も長与小学校に勤務しておりましたが、各学年の行事をビデオ録画し、それをＣＤで送るなどビデオレター的な交流もしております。

○山本総務課長

ほかに意見等ありませんでしょうか。吉田町長。

○吉田町長

農村部では昨今、グリーンツーリズムというものが注目されています。その中でも、「民泊」というものが、現在浸透してきています。農業者の方々は、昔は大きな家だったものですが、近年は核家族化し、子ども達が出てしまうと、スペースを持て余してしまいます。そこで民泊という考え方に至るようです。

当初は、民泊には日本の国内からの利用者だけだったようですが、今はインターネットの発展で、海外からの利用者の方が多いと聞きます。これは、立派な国際化だと思います。アメリカ、イギリス、インド、フィリピンなど様々な国からの訪問を受け、そのときのコミュニケーションは、日本人同士よりも伝わりやすい点もあるそうです。一生懸命身振り手振りで伝え合い、自分も片言の英語を使うなどし、これは相手の方も同じだそうです。そのような形で、既に国際交流が農業者の方々の間で始まっているわけです。彼らが帰国すると、その国の野菜やお菓子を送ってくるなどして、交流が継続することもあるそうです。

民間では、既に国際交流が始まっていて、それも農業者の方々が最もその接触の機会を多く持っているということを聞き及んでおります。

こういった現状を鑑みますと、野口委員のおっしゃったように、我々自身も実践していかなければならないという時代に来ているように思いますし、それどころか、かえって我々が遅れているという気がしております。

○山本総務課長

ほかに御意見はありませんか。なければ、２つ目の議事、学校のＩＣＴ環境の整備につきまして、事務局より御説明お願いいたします。

○宮司教育総務課長

それでは、長与町内の小中学校のＩＣＴ環境整備につきまして、着座のまま御説明い

たします。

近年のグローバル化や、急速な情報化の進展により、日々の情報収集やコミュニケーション、生活上の必要な手続など、日常生活でＩＣＴを通じて様々なことを行うことが当たり前となっている現在、子ども達にはＩＣＴを受け身でとらえるのではなく、手段として積極的に活用していくことが求められています。

お手元にお配りの資料３の２枚目になります。「第２期教育振興基本計画で目標とされている環境イメージ」の資料を御覧ください。こちらが学校におけるＩＣＴ環境整備の水準となります。

・コンピュータ教室に４０台
・各普通教室にコンピュータを１台
・電子黒板を１台
・実物投影機１台
・特別教室用としてコンピュータ６台
・設置場所を限定しない可動式のコンピュータ（タブレット等）を４０台
・高速インターネット接続率及び無線ＬＡＮ整備率１００％
・校務用のコンピュータを教員１人１台

ということが水準として掲げられております。

長与町において、水準以下であるものが、

・電子黒板
・設置場所を限定しない可動式のコンピュータ（タブレット等）
・無線ＬＡＮの整備率

が主なものになります。

長与町のタブレットにつきましては、小学校５校に現在７０台、長与中学校に１００台という設置台数でございます。無線ＬＡＮ整備率につきましては、１６．８％という低い結果となっております。今後、中学校へのタブレットの導入と、無線ＬＡＮの整備を計画的に行うことが、長与町の課題であると考えております。

○山本総務課長

それでは「学校のＩＣＴ環境の整備」につきまして、御質問、意見等あればお伺いしたいと思います。

原田委員。

○原田委員

今のＩＣＴのことについてですけど、前回、予算をいただいて、教育委員の視察ということで、山江村に行かせていただきました。生徒達が１人１台ずつ、タブレットを持って学習していましたが、「学力の向上が目に見えて分かる」という、向こうからの御説明がありました。更には、子ども同士の信頼関係の強化にも発展し、いじめ問題にも関わっていくことではないかというお話でした。この課題は、是非検討していただいて、前向きに進めていただければと思っております。

○山本総務課長
　野口委員。

○野口委員
　文科省の会議と山江村の視察に参加させていただき、本当に感謝しております。
　文科省の会議の方は、長崎県からの参加は少ないようでしたが、このような配慮をいただいたことに、今この場を借りてお礼を申し上げます。
　山江村で私が一番感心したのが、やはり上に立つ方の熱情でした。情熱が山江村をあそこまでＩＣＴ教育の先進地にしたのだと感激しました。単に機械を導入するだけではだめだと思います。それをいかに使いこなすかについて、真剣に取り組んでいたからこそ、全国でトップレベルになれたと思うのです。
　長与町も大変力を入れており、私もそれを自負しておりますけども、それ以上に、何故山江村があそこまで有名になったのかということを目の当たりにしました。教育が、その村全体を変えて、突風のように住環境まで変えて、人もそこにどんどん集まってくるという素晴らしい例を拝見させていただきました。
　長与町も、長崎県下では学力優秀ということで誇れるのですが、平均より上ということでなく、更に上を目指すためにはどうしたらいいかなと私は思っています。今回印象深かったのは、管理職の先生だけでなく、直接ＩＣＴに関わっている先生達と交流できまして、そのときの質問が、さすが長与町はしっかりＩＣＴに取り組んでいるというような質問ばかり出ました。その先生達の行動力に共感しております。
　私の願いとしましては、長与町が更なる上を目指すということです。具体的には、例えば、先日、長与の授業を拝見させていただいたのですが、ＩＣＴのためのタブレットを導入しても、使い方には個人差が大きくあります。得意なお子さんは簡単に操作するけれど、なかなか不慣れなお子さんもいます。そういうときには生徒同士の教え合いや、そういうグループへの授業などですね。
　私自身、スマートフォンとタブレットを使っておりますけども、やはり大変便利で、何でも調べられ、とても重宝しています。先ほどのウェザースフィールドとの交流のことについて、例えば、メールを送信するのは一瞬です。昔は１週間かかりました。そういう時代のスピード感というものに、とてもマッチしてると思います。
　もう一点、少し気になりますのが、町内の学校間格差です。このような端末をすぐに使える環境にある学校と、そうでない学校があり、貸出しや、交換などが可能ならば、そういった配慮を実現していいただければと思います。

○山本総務課長
　勝本教育長。

○勝本教育長
　先日、ある情報通信機器メーカー（Ａ企業）が見えまして、新システムを試験運用として長与中学校に御提供いただきました。委員の方々も視察で感じられたかもしれませんが、このような教材は、まず職員が使えない限りは、子ども達に渡せないという問題

があります。野口委員がおっしゃったように、子ども達は、小学校の段階から接しているものなので、とても上手です。中学生となると驚くようなことをします。そういったこともあり、その前に職員が慣れなければならないというところに、Ａ企業からの貸出しの申出がありまして、長与中学校に導入しています。

今後、学校間格差の解消ということで、町内各校に配分できるよう協議を検討し、そしてまずは職員に空いた時間にどんどん使っていただきたいと考えています。予算の関係もありますが、研修等も行い、年度の中途からでも使えるようになれば、もっと子ども達のためになるはずだと、そのように計画しております。

今回、このような一つの良いきっかけを作っていただいたこともあり、企業ともタイアップしていくことができれば、この計画も可能になるのではと考えております。

○山本総務課長

村上委員。

○村上委員

私は残念ながら山江村には行くことができませんでしたが、長与町においては、先ほどの議題の外国語、英語教育等についても、県下でもいち早く取り組んでいるということは実態として把握しております。

教育総務課長の方から、先ほどタブレットや無線ＬＡＮの整備率、電子黒板等について、かなり遅れているということを伺いました。毎年、学校訪問をさせていただきながら、私たちも授業参観するとき、ＩＣＴ教材をどのように活用しているか、何の教科にどのような使い方をしているか、関心をもって見ています。

大半の学校が、様々な教科で使用しており、今の教育において、このような教材は適材適所といいますか、とても大事なものだと感じております。同時に、先ほど教育長もおっしゃいましたように、先生方、特に小学校の先生は、教科指導や、文書面の仕事もたくさんある。そういった中で、更にＩＣＴ教材の研究もあり、最近では教科書に準拠した教科書もあるようで、これらの教材は大変高価だということをお聞きしています。教科書が変わるごとに、新しいものを入れる場面も出てきて、予算的な問題もあります。先生方において、自作の教材を作ってらっしゃることもあり、各種の研修もある。外国語教育、すなわち英語教育が平成３２年度には小学校５、６年生の教科になり、３年生までが週に１時間程度ということになります。

このような状況になると、例えば学級担任の先生がかなり英語の能力持っておかなければ、児童・生徒に満足な指導を行えないようなこともあるかと思います。私は、あらゆる面で、将来に向けての展望を長期的な見通しで立てなければいけないと思いますし、同時に、町長を始め、教育予算というものを頭に入れていただければと思っております。

これにつきまして、小中学校のＩＣＴ整備に関し、各学校の実情、先生方の取組、そして児童生徒の英語教育についての反応や、ＩＣＴ機器についての反応の報告があればと思います。

○山本総務課長

近藤理事。

○近藤教育委員会理事

ＩＣＴ機器への反応・実情についてお答えします。

教職員の多忙という面は御指摘のとおりです。ただ、その中でも長与中学校の実践をそれぞれの学校に持ち帰り、共有をするという取組を行っています。長与中学校の実践自体が先端的なものであるというよりも、ＩＣＴ教材が授業のこの場面で、このような使い方ができるということを提示するというような研究を、これまでも行ってきております。それらを共有しながら、各教科でいかにして利活用できるかということを行っております。

また、全ての教材をデジタル化するというようなものでなく、「有効な活用」という点を念頭に置いております。例えば、委員の皆様方は十分御承知でしょうが、ＩＣＴ機器を用いてノート指導をすることを例にとると、実物投影機で、教員が実際に手で書いているものを大きな画面に映すことにより、子どもの方を向いたままノート指導ができるようになります。また、昔は水書板という書道の教材がありましたが、実物を投影して、目の前で映し、子ども達はそれをなぞらえてみるという方法もあります。もしくは、学びが遅れがちな子は、振り返るための手立てとして、必要な映像を残しておき、つまずいたところから戻ってやり直していくというような方法です。

ＩＣＴ教材を利用することで、何かとても目新しいことをするというだけでなく、授業を補完するツールであるという認識も等しく重視しております。

以前は、例えば電子黒板が入ると板書はなくなるのではないかという様なことも危惧されましたが、そのような使い方ではないということです。それから、デジタル教科書は、確かに値が張るのですが、私たちが想像できない１０年、２０年後には、紙の教科書というものがなくなる時代が来るかもしれない。配られるのはタブレットで、クラウドから教科書を拾ってそれぞれが自分のタブレットで用いるというような時代が来るのかもしれない、ということを考えますと、やはりデジタル教科書のようなものに慣れ親しむことは、子ども達にとっても教員にとっても大事なことであるという認識を持っております。

さらに、長与町では、小中連携事業ということで、小学校と中学校の教員が協同で研究を行う機会を持たせていただいております。その中で、外国語の活動部会として、小学校の英語と中学校の英語を繋ぐような部分、それから中学校の教員が小学校に乗り入れるような授業というのも、既に実験的に行っているところです。併せて、この部会の中にＩＣＴに関する部会も置いておりまして、それぞれの学校が持っているノウハウであるとか、今後の方向性について、担当レベル、教諭レベルで意識が向上するような、手立てを打っているところです。

○山本総務課長

ほかに意見等ございますか。

古賀委員。

○古賀委員

私も山江村に行かせていただき、山江村の教育長からのお話の中に、今の子ども達が社会人になって就職する頃には、今までなかったような仕事が、３割か４割出てくるだろうというようなお話をいただきました。まさしくそのとおりだなと思います。

多様な作業を行う現場でも、今や産業全体がコンピュータ・ロボット化しており、工場はもちろん、農業の世界でもそのような状況になってきていると思います。

高齢化による人口減少という面もあり、世界的な動きがそのような流れにある中で、今の子ども達が、ＩＣＴ機器を鉛筆や消しゴムを使うように、日常的に活用した授業を受けるという時代になっているのだということを感じました。

長与町もその流れに遅れないように取り入れてこられて、ある程度のレベルで子ども達の成績も上がり、実質的なところで成果が出ていると思います。長与町の規模を考えますと全てを充実させるのは、大変困難であると思いますが、頭の中ではそういうところを理想として、段階的に、色々な面を考えていただければと思います。

町長がよく言われるように、長与で育ち、長与を愛して、長与で生涯働いていけるような町をつくっていただくためには、先ほどの英語の話もありますが、国際化という視点も含めて、先を見据えて、私たちがいなくなってからの世界もですね、想像しながら推進していただければと思います。話が大きくなりましたけど、そのようなところまで考えていただければ、これからの子ども達、またその子ども達のためにもなるのかなと思います。よろしくお願いします。

○山本総務課長

吉田町長。

○吉田町長

貴重な御意見、本当にありがとうございます。古賀委員がおっしゃった中で、今までなかったような仕事が生まれるだろうという発言があり、非常にそれが私は耳に残っております。

昨今グローバル化といいますけど、以前は例えば自分でお店を作ろうとか、企業を立ち上げようかなどといったこともありましたが、現在は、そういった企業というものがグループ化してきており、なかなか１人で企業を立ち上げるということが難しくなってきています。しかし、パソコンやインターネットを用いると、世界と繋がっていますから、長与に居ながら世界と繋がった仕事や事業を行うことができるというようなことを考えました。そういった時代になっていくことを考えますと、今、古賀委員がおっしゃるように、先を見据えた対策を、予算を勘案しながら推し進めなければならないという考えでございます。

○山本総務課長

ほかにありますでしょうか。なければ、予定しておりました議事につきましては以上となります。この議事のほかに、委員の皆様の方から何かございましたら、お伺いしたいと思っております。いかがでしょうか。

ないようでございますので、以上で本日の会議を終了いたします。ありがとうございました。